

市史しぼれ話

110

吉田地区

吉田という地名は、一五八〇年代の記録に見られますが、集落はそれ以前に形成されたのでしよう。一六〇〇年以降、吉田村は蒲野（かばの）、住方（すみかた）、谷（さく）、江川（えがわ）、城（じょう）、新田（しん

でん）の六集落から成り立っていました。江戸時代初期は、旗本稲垣氏が支配地とし、新田集落に陣屋（じんや・居住地）が置かれたことから、今にその名が伝わっています。一六九八年（元禄十一年）から六名の旗本により六集落がそれぞれ分割されることなく、一

七〇年ほど支配され続けたことで一体感が生まれたのでしよう。

小学校周辺が村の中心となったのは、一八八九年（明治二十二年）四月に入山崎、南山崎、八辺（やっぺ）、南神崎（みなみかんざき）と吉田村の五か村合併で、新吉田村が成立し村役場や学校などが建てられてからのごとです。新町は幕末ころから集落ができはじめ、栄（さかえ）は一九二六年（大正十五年）の軽便鉄道・多古線の開通により下総吉田駅が設置された後に集落ができ、停車場と呼ばれていました。

市内では珍しい百観音

八辺、南神崎は中世からの集落で、一四二二年（応永十九年）の日蓮宗板碑（いたひ）があり、八辺からは江戸時代初期に照海（しょうかい）という僧が江戸で活動し、徳川氏の信頼厚く、米倉・西光寺（中央地区）、八辺・真福寺の寺領寄進に貢献したと伝わっています。

入山崎、南山崎は江戸時代初期には山崎村でしたが、一六三五年（寛永十二年）から二つに分けられました。

四月下旬、筆者は吉田小の先生と地区の史跡を歩いた際、吉田地区で有名なものは、という質問を受けました。

吉田・妙覚寺裏山の百観音は地区を代表する歴史遺産といえるのでしよう。一八五七年（安政四年）に周辺村むらの信者の寄付によつて百体の石の仏が建てられました。観音（かんのん）霊場として広く信仰を集めていた西国（さいごく・関西地方）三十三観音、秩父（ちちぶ・埼玉県）三十四観音、坂東（ばんどう・関東地方）三十三観音の合わせて百体がここにまつられました。くわしい分析はしていませんが、現在の光町、横芝町、山田町などの寄進者名が見られます。今回の探訪が、「吉田の百観音」として広く知られるきっかけになればと考えます。

（生涯学習課）

